

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-153189

(43)Date of publication of application : 28.05.2002

(51)Int.CI.

A01K 97/06

(21)Application number : 2000-355115

(71)Applicant : YOTSUAMI:KK

(22)Date of filing : 22.11.2000

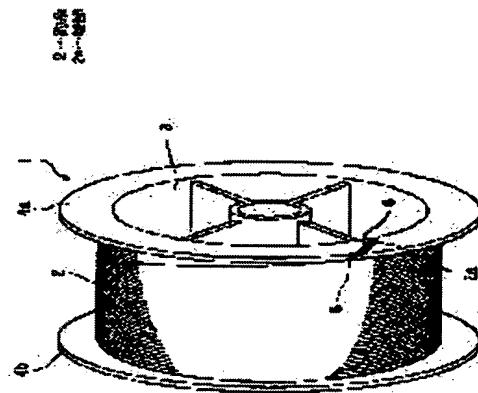
(72)Inventor : NAKANISHI SHIGERU

(54) SPOOL FOR FISHLINE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a spool for fishline causing the fishline not to come out of the flange and ensuring unnecessary gaps between the respectively adjoining spools not to be made when a plurality of the fishline-reeled spools are collectively packed in a single packaging case, thus ensuring the bulging deformation of the packaging case not to occur even if a relatively large-sized packaging case is not prepared.

SOLUTION: This spool 1 for fishline is so designed that both ends of a shell 3 with cylindrical section are integrally provided with flanges 4a and 4b outside the radial direction of the shell 3; wherein part of the outer circumference of the flange 4a situated at least on end side of the shell 3 is provided with a groove 5 wider than the diameter of a fishline 2 wound on the shell 3 and also, following the groove 5, a 2nd groove 6 wider than the diameter of the fishline wound on the shell 3 is formed on the outer surface of the flange 4a over the range from its outer circumference to inner circumference.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 22.11.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 06.04.2004

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-153189

(P2002-153189A)

(43)公開日 平成14年5月28日 (2002.5.28)

(51)Int.Cl.⁷
A 01 K 97/06

識別記号
502

F 1
A 01 K 97/06

テマコト⁸(参考)
502 2B109

審査請求 有 請求項の数1 O.L (全5頁)

(21)出願番号 特願2000-355115(P2000-355115)

(22)出願日 平成12年11月22日 (2000.11.22)

(71)出願人 000246479
有限会社よつあみ
兵庫県三原郡南淡町福良乙1004

(72)発明者 中西 滋
兵庫県三原郡南淡町福良乙986

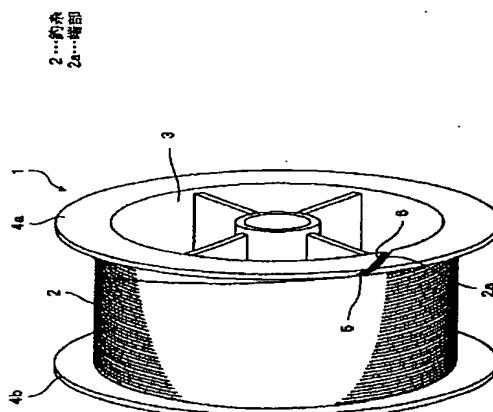
(74)代理人 100068087
弁理士 森本 義弘
Fターム(参考) 2B109 BA15 BA16

(54)【発明の名称】 釣糸用スプール

(57)【要約】

【課題】 フランジの外方への釣糸の飛び出しがなく、釣糸が巻かれたスプールを複数個まとめて1つの包装箱内に詰め込む際、隣り合うスプール間に無駄な隙間の発生がなく、大きな包装箱を用意しなくとも包装箱の膨らみ変形が生じないようにする。

【解決手段】 断面形状が円筒状の胴部3の両端に胴部3の径方向外側にフランジ4a, 4bを一体に設けてなる釣糸用スプール1であって、前記胴部3の少なくとも一端側に位置する前記フランジ4aの外周の一部に前記胴部3に巻かれる釣糸2の径よりも幅広の溝5を形成するとともに、この溝5に連続して前記フランジ4aの外周に外周から内周に亘って胴部3に巻かれる釣糸2の径よりも幅広の溝6を形成した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】断面形状が円筒状の胴部の両端に胴部の径方向外側にフランジを一体に設けてなる釣糸用スプールであって、前記胴部の少なくとも一端側に位置する前記フランジの外周の一部に前記胴部に巻かれる釣糸の径よりも幅広の溝を形成するとともに、この溝に連続して前記フランジの外面に外周から内周に亘って胴部に巻かれる釣糸の径よりも幅広の溝を形成してなることを特徴とする釣糸用スプール。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は釣糸用スプールに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来から釣糸を店頭で販売するのに巻いておくためのスプールとして種々の釣糸用スプールが知られている。

【0003】この釣糸用スプールの基本構成は釣糸を巻くための断面形状が円筒状の胴部と、この胴部の両端に胴部の径方向外側に一体に設けられたフランジとからなり、胴部に巻かれた釣糸が側方にばらけないようにフランジにより挟むようにしており、合成樹脂材料により作られている。

【0004】そして、このような釣糸用スプールにあって、釣糸の巻き終わりの端部は前記フランジの適所に形成された切り込み部に引っ掛けで止められるようになっているのが一般的である。すなわち、釣糸の巻き終わりの端部を引っ掛けで止めるための切り込み部の幅は釣糸の径よりも若干狭くなるように設定され、この切り込み部に釣糸の巻き終わりの端部を圧入させることにより巻き終わりの端部がばらけることがないようになっている。

【0005】このように釣糸の巻き終わりの端部をフランジの適所に形成された切り込み部に圧入させることにより巻き終わりの端部がばらけるのを止めているが、釣糸の巻き終わりの端部を切り込み部に圧入させた状態において釣糸の巻き終わりの端部が切り込み部よりフランジの外方に突出し、釣糸が巻かれたスプールを複数個まとめて1つの包装箱内に詰め込む際、隣り合うスプール間にフランジの外方に突出した釣糸の端部が挟まれ、スプール間に隙間が発生し、包装箱が膨らみ変形するという問題があった。そこで、包装箱の膨らみ変形をなくそうとすると、大きな包装箱を用意しなければならないという問題があった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明はこのような課題を解決するもので、フランジの外方への釣糸の飛び出しがなく、釣糸が巻かれたスプールを複数個まとめて1つの包装箱内に詰め込む際、隣り合うスプール間に無駄な隙間の発生がなく、大きな包装箱を用意しなくとも包

装箱の膨らみ変形が生じないようにすることを目的とするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】この課題を解決するため本発明は、断面形状が円筒状の胴部の両端に胴部の径方向外側にフランジを一体に設けてなる釣糸用スプールであって、前記胴部の少なくとも一端側に位置する前記フランジの外周の一部に前記胴部に巻かれる釣糸の径よりも幅広の溝を形成するとともに、この溝に連続して前記フランジの外面に外周から内周に亘って胴部に巻かれる釣糸の径よりも幅広の溝を形成してなることを要旨とするものである。

【0008】この構成により、釣糸の巻き終わりの端部や巻き始めの端部はフランジの外周の溝内に入り込み、その後この溝に連続してフランジの外面に外周から内周に亘って形成された溝内に入り込み、最終的に胴部の内周面に導かれて胴部の内周面に粘着シールなどで止められ、これにより釣糸の巻き終わりの端部や巻き始めの端部はフランジの外面から飛び出しがなく、釣糸が巻かれたスプールを複数個まとめて1つの包装箱内に詰め込む際、隣り合うスプール間に無駄な隙間の発生がなく、大きな包装箱を用意しなくとも包装箱の膨らみ変形が生じないようにすることができる。また、釣糸の巻き始めの端部を前記フランジに形成された溝でガイドした状態で保持しておくことにより、釣糸をスプールの胴部に巻くとき、スプールのフランジの内面との連設部における胴部の端部より釣糸を巻き始めることができ、釣糸の巻き状態を均一にすることができる。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について、図面に基づいて説明する。先ず、図1～図3に示す第1の実施の形態について説明すると、1は釣糸2を巻くための断面形状が円筒状の胴部3の両端に胴部3の径方向外側に外形が円形のフランジ4a、4bを一体に設けてなる釣糸用スプールであり、合成樹脂材料により作られている。そして、前記胴部3の一端側に位置する前記フランジ4aの外周の一部に前記胴部3に巻かれる釣糸2の径よりも幅広の溝5を形成するとともに、この溝5に連続して前記フランジ4aの外面に外周から内周に亘って胴部3に巻かれる釣糸2の径よりも幅広の溝6を形成してある。詳しくは、前記溝5および6は釣糸2の巻き方向に傾斜するように形成されている。

【0010】従って、胴部3に巻かれた釣糸2の巻き終わりの端部2aはフランジ4aの外周の溝5内に入り込み、その後溝6に案内されて胴部3の内周面に導かれて胴部3の内周面に粘着シール7などで止められる。このように胴部3の内周面に粘着シール7などで止められた釣糸2の巻き終わりの端部2aはフランジ4aの外面から飛び出しがなく、釣糸2が巻かれたスプール1を複数個まとめて1つの包装箱内に詰め込む際、隣り合う

スプール1間に無駄な隙間の発生がなく、大きな包装箱を用意しなくても包装箱の膨らみ変形が生じないようにすることができる。

【0011】ところで、以上述べた第1の実施の形態では前記胴部3の一端側に位置するフランジ4aに前記溝5および6を形成したが、図4および図5に示す第2の実施の形態のように胴部3の他端側に位置するフランジ4bにも前記溝5および6と同様の溝8および9を釣糸2の巻き方向に傾斜させて形成するようにしても良い。つまり、胴部3の両端に位置するフランジ4aおよび4bに前記溝5、6および8、9を形成することにより、胴部3の一端側に位置するフランジ4aに形成された溝5、6に胴部3に巻かれた釣糸2の巻き終わりの端部2aが案内されて釣糸2の巻き終わりの端部2aのフランジ4aの外面からの飛び出しをなくすことができるのであるが、胴部3の他端側に位置するフランジ4bに形成された溝8、9は釣糸2の巻き始めの端部2bを案内し、釣糸2の巻き終わりの端部2aと同様に釣糸2の巻き始めの端部2bを胴部3の内周面に粘着シール7などで止めるようにすれば良い。このように釣糸2の巻き始めの端部2bをフランジ4bに形成された溝8、9に案内して胴部3の内周面に粘着シール7などで止めておくことにより、釣糸2の巻き始めの端部2bのフランジ4bの外面からの飛び出しをなくすことができる。

【0012】従って、この第2の実施の形態のように、釣糸2の巻き始めの端部2bならびに釣糸2の巻き終わりの端部2aをともに前記溝8、9および5、6でガイドして、端部2bおよび端部2aのフランジ4bおよびフランジ4aの外面からの飛び出しをなくすことにより、釣糸2が巻かれたスプール1を複数個まとめて1つの包装箱内に詰め込む際、前記第1の実施の形態にも増して隣り合うスプール1間に無駄な隙間の発生がなくなり、大きな包装箱を用意しなくても包装箱の膨らみ変形が生じないようにすることができる。さらに、釣糸2の巻き始めの端部2bを前記溝8、9でガイドした状態で保持しておくことにより、釣糸2をスプール1の胴部3に巻くとき、スプール1のフランジ4bの内面との連設部における胴部3の端部より釣糸2を巻き始めることが

でき、釣糸2の巻き状態が均一となる。

【0013】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、釣糸の巻き終わりの端部や巻き始めの端部はフランジの外周の溝内に入り込み、その後この溝に連続してフランジの外面に外周から内周に亘って形成された溝内に入り込み、最終的に胴部の内周面に導かれて胴部の内周面に粘着シールなどで止められ、これにより釣糸の巻き終わりの端部や巻き始めの端部はフランジの外面から飛び出すことがなく、釣糸が巻かれたスプールを複数個まとめて1つの包装箱内に詰め込む際、隣り合うスプール間に無駄な隙間の発生がなく、大きな包装箱を用意しなくても包装箱の膨らみ変形が生じないようにすることができる。また、釣糸の巻き始めの端部を前記フランジに形成された溝でガイドした状態で保持しておくことにより、釣糸をスプールの胴部に巻くとき、スプールのフランジの内面との連設部における胴部の端部より釣糸を巻き始めることができ、釣糸の巻き状態を均一にすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施の形態における釣糸用スプールの斜視図である。

【図2】同釣糸用スプールに釣糸を巻いた状態を示す斜視図である。

【図3】同釣糸用スプールの要部拡大斜視図である。

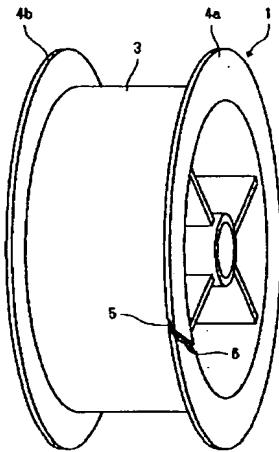
【図4】本発明の第2の実施の形態における釣糸用スプールの斜視図である。

【図5】同釣糸用スプールに釣糸を巻いた状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

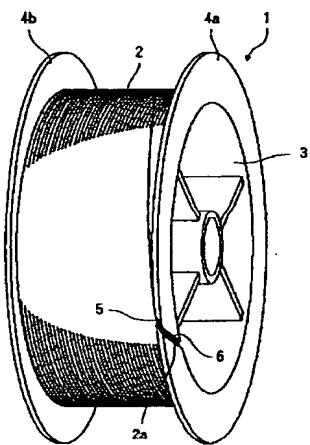
1	釣糸用スプール
2	釣糸
2a, 2b	端部
3	胴部
4a, 4b	フランジ
5, 6	溝
7	粘着シール
8, 9	溝

【図1】



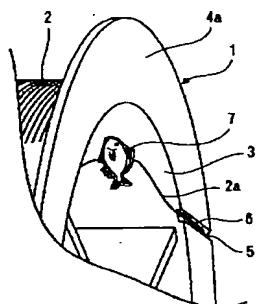
1...釣糸用スプール
3...胴部
4a, 4b...フランジ
5, 6...溝

【図2】



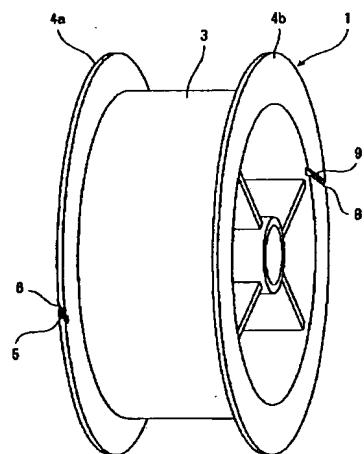
2...釣糸
2a...端部

【図3】



7...粘着シール

【図4】



8, 9...溝

【図5】

